

星 霄

No. 272
1997 November



星屑

No. 272
1997 November

写真を貼って下さい

「昇るオリオン」
佐伯和久氏撮影

熊本県民天文台

COMET PAGE

Sept. 1997

by Porco Nisse (KCAO)

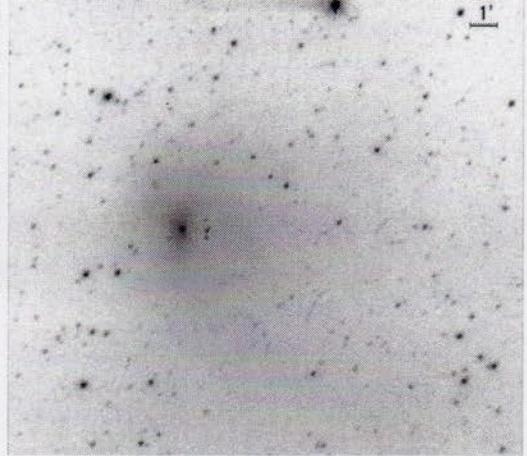
このページは、1997年9月に観測した彗星の紹介です。

熊本は星を見るには最悪の地のようだ。いつまでたっても晴れる夜がない。かといって災害が起こるほど悪いわけでもない。ただ☆が見えないだけ・・・これではさっさとしっぽ巻いて逃げ出すに限るなあ。どこか天気の良い所へ。

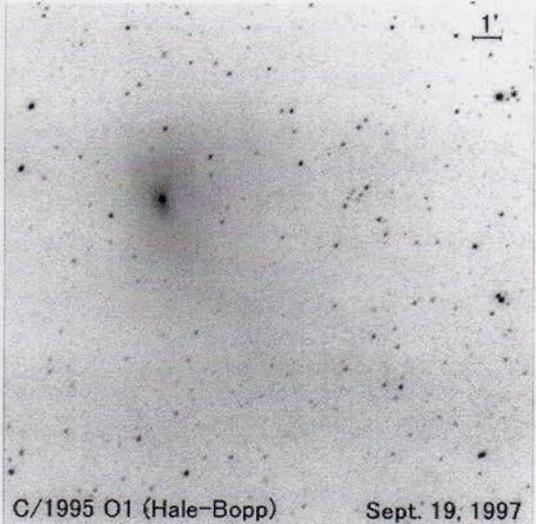
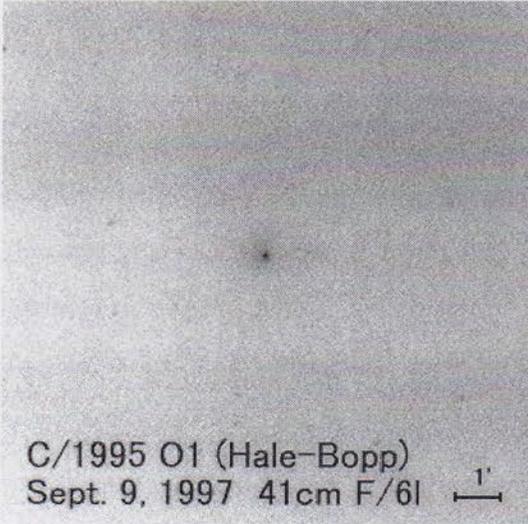
九月も星を見る天気は・・・こなかった。台風は忘れないうちにきちんと襲来したけれどもね。

☆ C/1995 O1 (Hale-Bopp)

C/1995 O1 (Hale-Bopp) Sept. 17, 1997

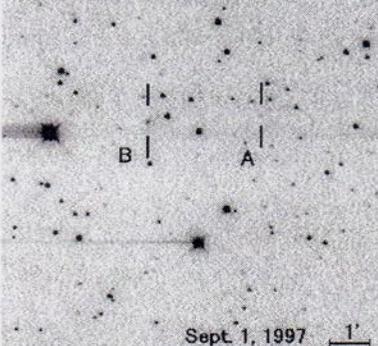


▲ 再会！ ヘール・ボップ彗星

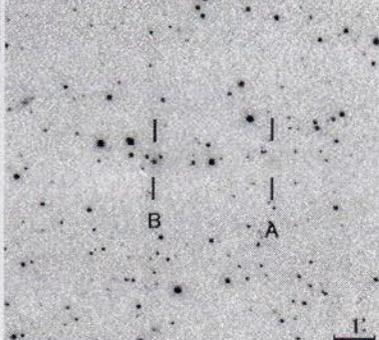


5月末に夕空に見送った星が南東の空低く見えるようになりました。ただ地平高度は10度を越えることなくそのまま南下してしまうのですが、計算上は11月頃まで観測可能のはずです。さて、いつまで見えることでしょうか・・・。

C/1996 J1 (Evans-Drinkwater)

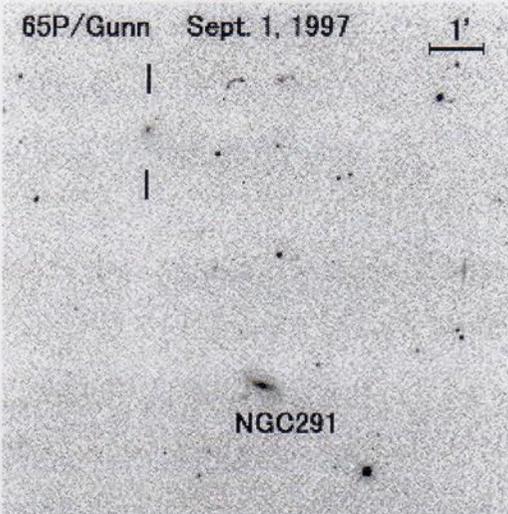
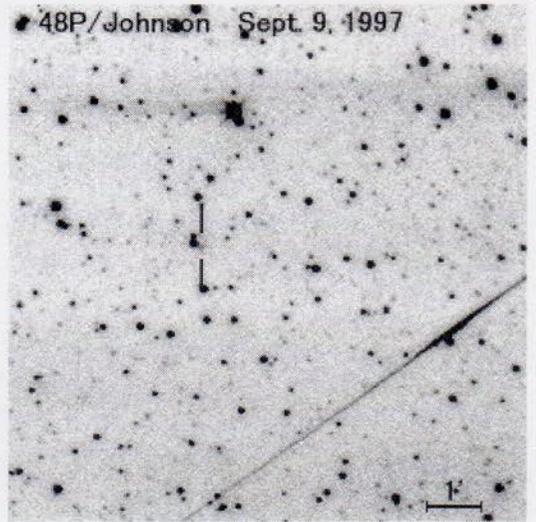
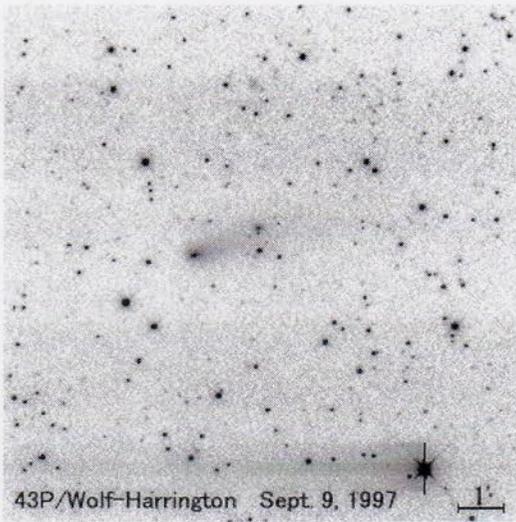


C/1996 J1 (Evans-Drinkwater)

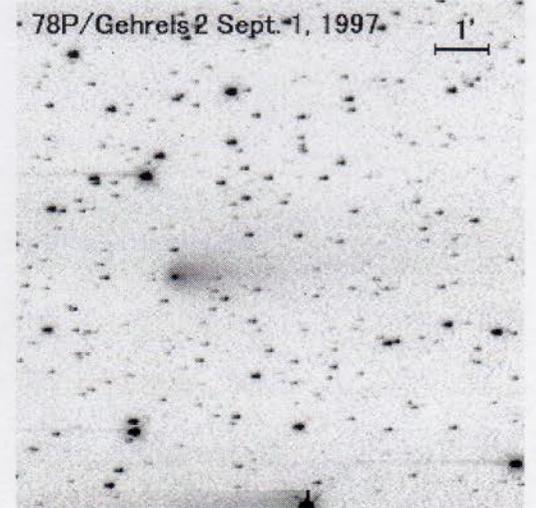
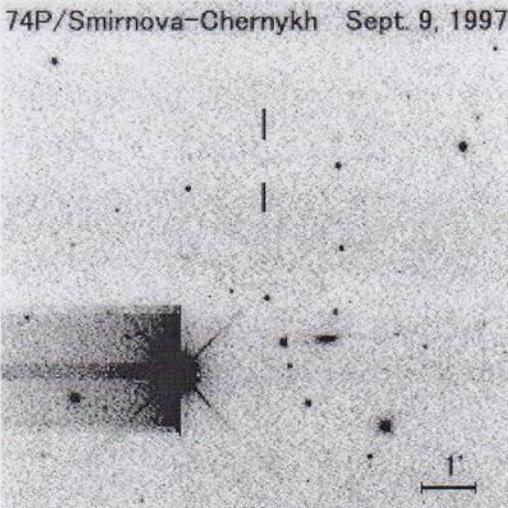


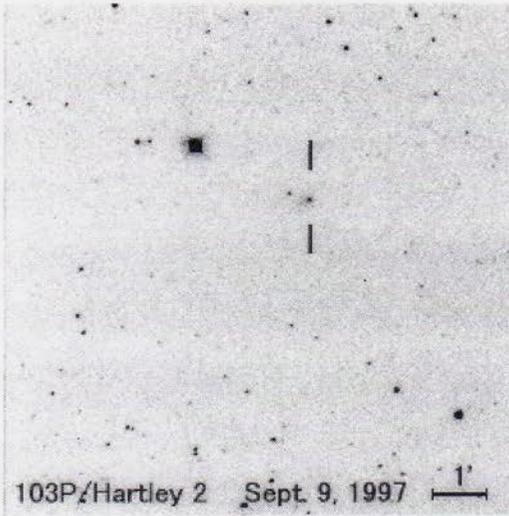
☆ C/1996 J1 (Evans-Drinkwater)

二つ並んでという雰囲気はなくなりましたが、B核は元気でまだまだ観測できます。この星は双曲線軌道が計算されていますので、もう二度と見ることはできません。彗星との出会いは、別れの始まりでもあります。

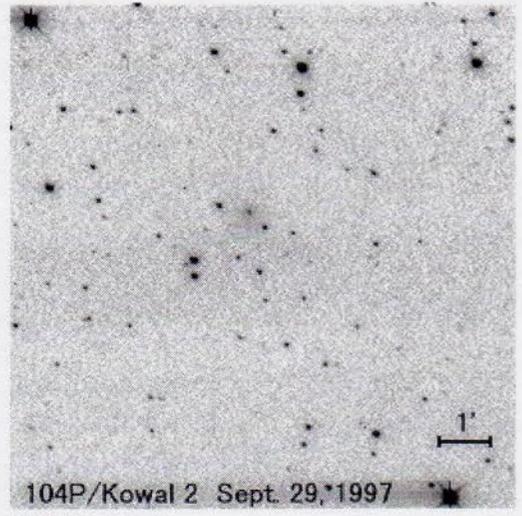


- ☆ 43P/Wolf-Harrington
近日点通過が9月29日のこの彗星は予想通り明るくなってきました。立派な尾が見えます。
- ☆ 48P/Johnson
1949年に発見された小彗星で、今回帰の近日点通過は10月31日です。この画像を撮像中に視野内を人工天体が通過したようです。
- ☆ 65P/Gunn
ツー・ショット彗星ガン、今回はNGC291と一緒に撮りました。
- ☆ 74P/Smirnova-Cheruyk
軌道が真円近いために常連ですが、あまり明るくならない星です。
- ☆ 78P/Gehrels 2
天の川を横断中で微光星がいっぱい写ります。彗星らしい姿ですね。

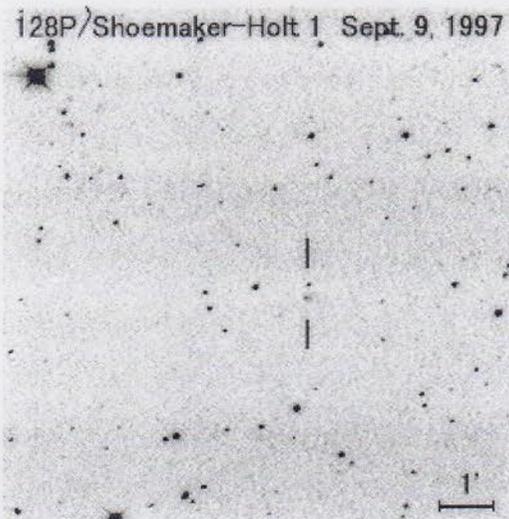




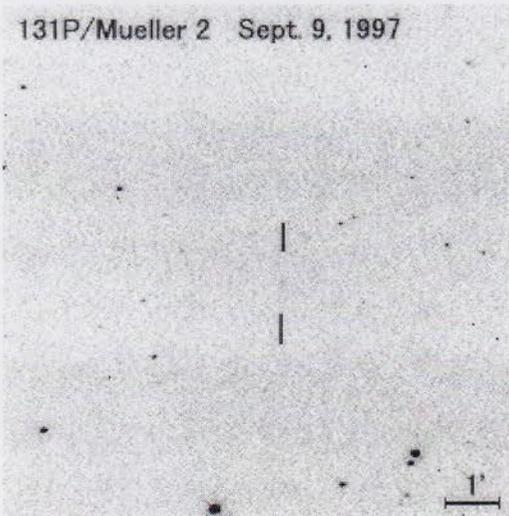
103P/Hartley 2 Sept. 9, 1997



104P/Kowal 2 Sept. 29, 1997

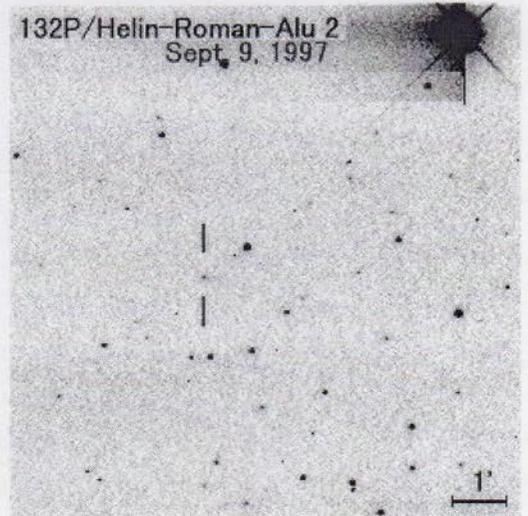


128P/Shoemaker-Holt 1 Sept. 9, 1997

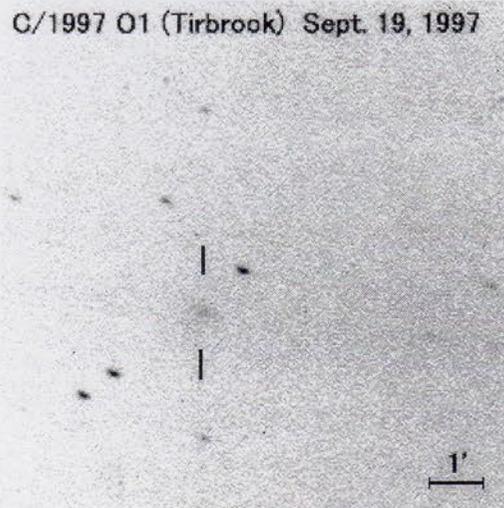
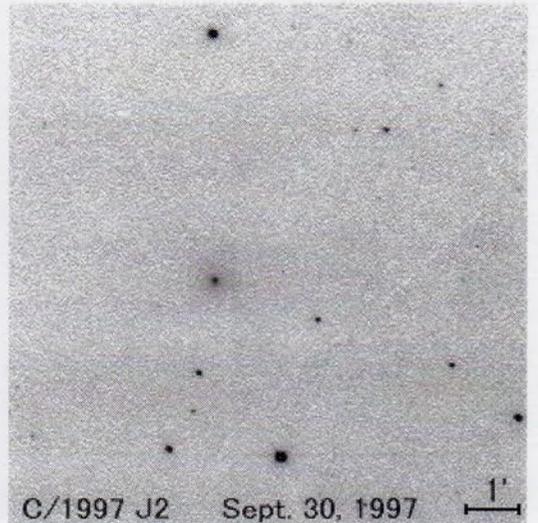
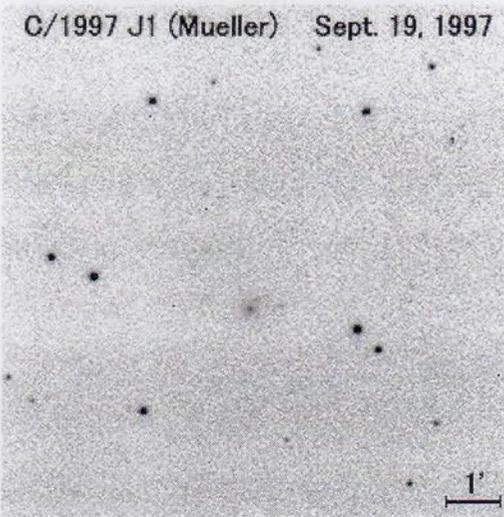
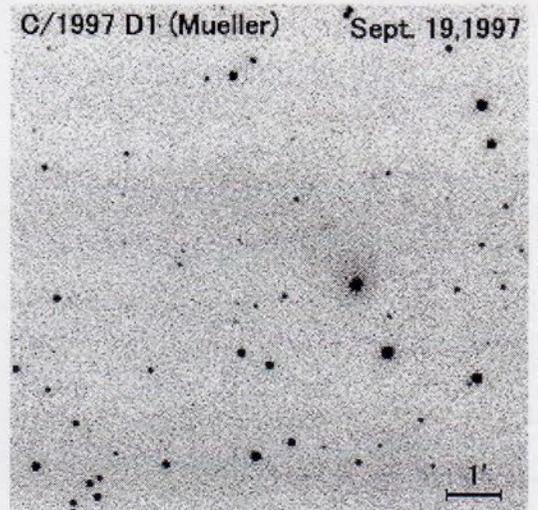
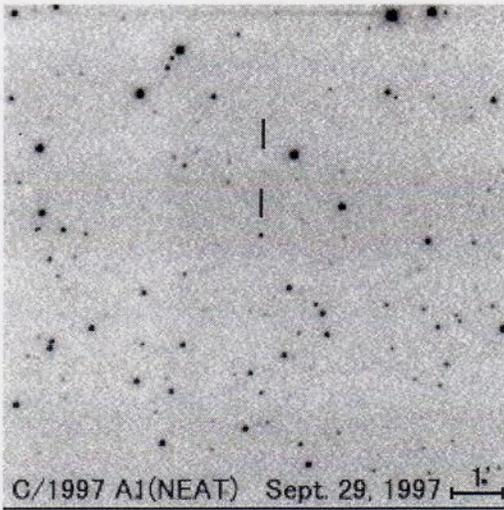


131P/Mueller 2 Sept. 9, 1997

- ☆ 103P/Hartley 2
だいぶしっかりした姿になってきました。東に伸びる尾がはっきりしてきました。
- ☆ 104P/Kowal 2
丸いコマに見かけが変化しましたが、よく見るとコマの濃度は一様ではありません。
- ☆ 128P/Shoemaker-Holt 1
西に尾が見えます。この彗星の発見者の一人シューメーカーさんがオーストラリアで交通事故のため亡くなりました。黙祷。
- ☆ 131P/Mueller 2
KCAOではニュー・フェースです。今回が発見後初の回帰で周期彗星番号131番が与えられました。
- ☆ 132P/Helin-Roman-Alu2
1989年に発見された星の初回帰です。132番目の短周期彗星となりました。小さいけれど意外にしっかり姿で、西に尾が伸びているのがわかります。



132P/Helin-Roman-Alu 2 Sept. 9, 1997



- ☆ C/1997 A1 (NEAT)
今年1月に発見されたこの星が再び北東の空に見えるようになりました。小さいけれど西に尾があります。
- ☆ C/1997 D1 (Mueller)
東の空に回った姿です。北東に伸びた姿は尾なのでしょうか？
- ☆ C/1997 J1 (Mueller)
この星も東に回りました。
- ☆ C/1997 J2 (Meunier-Dupouy)
この星はずーと北西の空低くに位置しています。12等級でしっかりした姿です。
- ☆ C/1997 O1 (Tirbrook)
この星はずっと空の低い位置に見えるため、観測が困難でした。これからはますます太陽に近くなのでもう追跡は無理かも知れません。

構

内をぐるりと見て回って、本館のほうに戻ってきたときは、薄暗くなっていました。屋内の展示物も大盛況でした。子供が細長い帯状の紙になにか一生懸命、塗り絵をしているのを見て、担当の人に、

「天の川ですか？」と聞くと「銀河の星間ガスの分布です」という答えが返ってきました。なんてスケールの大きい塗り絵！！

理論天文学研究の前では、星の写真も多いのですが、パソコンのディスプレイがずらり並べてあって、天体のシュミレーションのデモをやっていました。また、パオネットの実演もありました。

そんなのをみていたところで、渡部潤一先生に見つかってしまいました。

「まるで学園祭みたいで盛況ですね」と言うと、

「今年からだよ、こんなになったのは、去年までこんなではなかったのだがネ」と笑ってはいましたが、どこか寂しそうでした。

再び、外へ出ました。どこが部署がやっているのかなぜか屋台が3軒並んでいていい匂いがたちこめていました。

焼

焼きジャガが200円。歩き回ってお腹がすいていたので、これを1個買いました。アルミの上から新聞紙に包んでくれて渡されました。中は、バターでしとどに包みこまれて、うまい。

玄関前のいすに腰掛けて食べていると、目の前を走り回っている男の子と女の子の兄弟が、わずかに顔をだす月を指さしながら、

「おつきさん、みようとするとかくれちゃうよ！！」

と父親にさげんでいました。おそらく、どこかの望遠鏡で月をみてきていたのでしょう。

あの手この手で、天文台をアピールした一般公開日だったのですが、子供たちにこういった言葉をいわせたことで目的とするには十分果たせたのではないかと、そう思いました。

帰

りに焼きジャガの前を通ると、バターが無くなって、塩味の焼きジャガに変えているところでした。値段は、50円さがって150円になっていました。

もうすっかり曇ってしまって、天文台を後にするころには、わずかに雨が降りはじめていました。

さて、さて、さて、今年の国立天文台の一般公開日は、

1997年11月 8日(土曜日/上弦) みたいです。東京近辺の方は出かけてみたらいかがでしょうか？

詳細は、国立天文台のウェブページを見てください。URLは、

http://www.nao.ac.jp/index_J.html

です。

たかたがあるく第4回おわり

())
(..)
(☆)

あまりあてにならない次回予告

「ヘール・ボップ彗星に見られたコーン状ジェットの解析」

8月の彗星・小惑星会議で発表してきました。

国立天文台

たかたがあるく第4回

一般公開と

焼きジャガのタベ

おことわり

この話は一年前のものです。
途中まで書いて止めていたのを
やまとまとめあがることになりました。
たかた。

国立天文台を訪れるのは実に5年ぶりのことだった。

中央線・武蔵境南駅発のバスは市街地を抜け、やがてこんもりと木々が生い茂った一角の縁にたどり着く。そこの停留所で降りると、すぐに空気が変わっているのに気づく。構内から木々の香りが漂ってきているのだ。自分がいかに“森”から離れたところで生活しているかあらためて思う時である。

「臭覚は記憶につながる・・・」何かの本にそう書かれてあった。

5年前、渡部潤一先生（現・国立天文台広報普及室長）主催の太陽系内小天体を対象にしたゼミ「三鷹塾」は野望あるアマチュアの研究者を集めて開かれていた。私もそのゼミの末席を借りてここにはだいぶ通った。広大な敷地（と思われる）のすぐ手前に教室はあったので、奥に足を踏み入れたことはなかった。唯一奥までいったのは、最後のゼミの日で—この後、すばる望遠鏡の関係で渡部先生はハワイに留学されることになる—ちょうど私も熊本に帰る直前でもあった（その話は5年前の「星屑」にも書いている。）—時間がかなりあったので中にずんずん歩いていった。天文台の奥はさらに木々がこんもりしげり、その中に点々となにやらいわくありげな建物がたっていたのを覚えている。

その後・・・三鷹塾は終わっても、渡部先生とつきあいのあった研究者は、ことあるごとここを訪れていた。内地留学する人もいた。ちょっとした梁山泊になっていた。

ところで、梁山泊とはいっても、誰それをつかまえてこのへんの話を知ると「このあいだ、国立天文台に論文をコピーしに行ったついでに宴会をしてきた」とか「教室で誰とそれとで飲んだ」とか「そのまま泊まった晩、誰それが酔った勢いで■■■■をしてかした」とかいう話を目を輝かせて喜々としやべってくれる。

まさか、「それ」が目的で行っているわけではないのだろうが・・・まあ、これを知っているのも酒の席だからと、私はこれ以上まじめに追求しないことにしている。

さて話をもとに戻して、1996年10月19日(土)晴れ。この日は年に1回の国立天文台三鷹地区の一般公開日でした。バスに乗り込むころから、なにかワクワクして乗り込む、親子連れ、カップルの顔が多いなと感じていましたが、やはり予想どおり国立天文台前停留所で大半の乗客が降りてみんな構内に入っていました。私は、当初から「たかたがあるく」にのっけるつもりでしたから、事前の綿密な調査など当然・・・するはずがなく、とりあえずコンパクトカメラを右手に、借り物のデジタルカメラを左手に、そして背中のディバッグにはスケッチ用具を忍び込ませ5年ぶりに天文台の門をくぐったのでありました。



こくりつてんもんだいみたかきやんばすおおにぎわいのぞ
国立天文台三鷹地区大賑之図

人しれずひんろと
 ドームがあたりする

自動光電子午環

65cm屈折望遠鏡

半分量の空でも、の
 月を観おとし、ずり人が
 並んでいた。

50cm公開望遠鏡



近くの住宅地の中にあつては、
 南極 13950km
 チョモランマ 5085km
 ルマンディ 9252km
 富士山 ...
 天文台とは関係ないみたい。

太陽フレア望遠鏡

やがてここに、「重力波検出地」という石碑がたつてあるのか？

重力波検出装置

1.5m 赤外線望遠鏡

道の向こうには、重力波があるらしい

屋内展示

X-線の望遠鏡、双眼金鏡

屋台

東大生協天文台支社

「質問コーナー」には天文ジイサンが詰めよっていた。



短期集中連載

びんぼー大学生のパソコン製作日記

～第2回（最終回）～

熊本大学天文研究会
中尾 達也

とりあえず、ケース、CPU、マザーボードが手に入ったので、中島先生に手伝ってもらい、とりあえず取り付けてみることにしました。しかし、ケースの1カ所のネジがおかしくなっていて、締まりもしなければ緩みもせず空転するばかりになるという事態に見舞われてしまいました。やっとのことでそのネジをはずし、もう1カ所のネジだけで固定することになりました。

後日、その他の部品をそろえて艶島さん、中島先生と組み立てることになったのですが、中島先生は「もう今日は帰れんよ。」とビール持参で、すでにアルコール燃料の力を借りています。しかも、組み立てながらケーブルを逆につないだりこの先の展開を暗示しているかのようなのでした。そしてBIOSのハードディスクの設定をして、いよいよこれからWindows95のインストールという画面までいったのですが、ここから進まなくなってしまいました。ハードディスクの設定がおかしいのだろうかとか艶島さんと2人でいろいろと疑っていじってみたのですがどうにもなりません。そうこうしていて、ふと画面をみるとメモリーテストを何回もやっているではないですか。5回やったかと思えば次に起動したときには2回だったりします。不可解な動きでしたが、これはメモリーを交換してもらおうということになりました。

こんなに悩んでいたときに中島先生は何をしていたかといいますが、2人を尻目に読書（マンガ）にふけっていて、静寂の中に響く突然の笑いは不気味でさえもありました。そんなとき、艶島さんがケースのネジが壊れた影響でマザーボードがガタついているのに気づいたのです。なんとかきちんと取り付けて起動してみると、驚

いたことにWindows95がインストールできたではありませんか。マザーボードにストレスがかかっていたのだろうということでした。2人で喜んでいると、後ろから「あれ!?!、インストールされとるやんね。いつの間に?」と一部始終に気づいていない中島先生の声です。こうして、4時間あまりの格闘の末にやっと完成し終わったのは午前2時をまわったころでした。

めでたく現在、このパソコンはこの文章を書くのにも使われ、いつストップするかという不安の中、我が家で活躍しております。ご協力して下さった皆さん、本当にありがとうございました。

なお10/7現在、製作にかかった費用は以下の通りです。

ケース	3000円	艶島さんありがとう!
CPU&HDD	0円!	中島先生ありがとう!
FDD サウンドカード キーボード メモリー(32MB)	4つで 24800円	中尾富作さんの値切りのおかげです!
マザーボード ビデオカード SCSIカード	????円	小林壽郎さん、ありがたく頂きます!!
CRT	29800円	うーん、一番高い!!
合計	57600+????円	

先月に続き、朝夕めっきり涼しく・・・なりすぎ・・・です。毎度毎度熊本では、藤崎宮秋の例大祭が終わり、ポスッと寒くなりました。先日、金峰山少年自然の家で、星空観望会があり、バイクで参加しましたが、後悔の嵐。車で来りゃあこんな寒い思いもせず、しかも道がクネクネで・・・だいたいガードレールが夜は見えん。しかも、帰りは下り、そう、スピードが出るの！！しかも、後ろから、天文台メンバーの追跡(あおり)もあって、ダブル寒い！！みなさん風邪などひかぬようお過ごし下さい。ズズー。

☆ 11月の天文現象&行事 ☆

- 1日(土) しし座Rが極大(周期310日 4.4等~11.3等)
- 3日(月) 夕方の空で月が火星・金星に接近
おうし座流星群の南群が極大
- 6日(木) 金星が東方最大離角(47°07'.8 光度-4.4等)
- 7日(金) 立冬
- 8日(土) 上弦(06:43) トークアバウト(20:00~)
- 12日(水) おうし座流星群の北群が極大
- 14日(金) 満月(23:12)
- 16日(日) おうし座アルデバランの食(05:28 東京潜入時)
- 18日(火) しし座γ流星群が極大
- 22日(土) 下弦(08:58) 小雪
- 29日(土) 水星が東方最大離角(21°38'.4 光度-0.4等)
- 30日(日) 新月(11:14)

熊本県民天文台機関誌 「星屑」 1997年11月号 通巻272号
発行所 熊本県民天文台事務局 〒861-42
熊本県下益城郡城南町塚原古墳公園内 熊本県民天文台
TEL 0964-28-6060

振替口座 01980-0-24463

熊本県民天文台事務局 担当 中尾 富作

ホームページ http://denouken.kmt-technopolis.or.jp/KUMA/KCAO_TST.HTML